

平成21年3月31日現在の寒河江市普通会計貸借対照表（BS）について

「資産」は、①将来の資金流入をもたらすもの、②将来の行政サービス提供能力を有するものに整理されます。「負債」とは、将来、債権者に対する支払や返済により地方公共団体から資金流出をもたらすものであり、地方債がその主たる項目です。また、「純資産」は、資産と負債の差額であり、地方税、地方交付税、国庫補助金など将来の資金の流出を伴わない財源や資産評価差額などが計上されます。

1 資産について

本市の平成20年度末資産合計は618億1,218万円で、うち有形固定資産が594億6,184万1千円（構成比96.2%）、出資金・出捐金等の投資など資産が9億4,131万4千円（構成比1.5%）、現金預金等の流動資産が14億902万5千円（構成比2.3%）となっています。有形固定資産は590億891万5千円で、うち生活インフラ資産が最も多く346億8,141万3千円、次いで教育資産が144億1,666万7千円となっています。

2 負債について

本市の平成20年度末負債合計は234億3,965万5千円で、うち地方債を主なものとする固定負債は211億764億6千円（構成比90.1%）、翌年度償還予定地方債を主なものとする流動負債は23億3,200万9千円（構成比9.9%）となっています。

3 純資産について

本市の純資産合計は383億7,252万5千円で、うち公共資産等整備国県補助金等は97億3,926万1千円（構成比25.4%）、公共資産等整備一般財源等は355億1,122万3千円（構成比92.5%）となっています。その他一般財源等は▲73億3,309万1千円となっており、すでに将来の財源の一部が拘束されていることを意味します。これは、これまで臨時財政対策債や減税補てん債等の資産形成を伴わない起債を行っているためです。

4 市民1人あたりの貸借対照表

単位：千円

借 方		貸 方	
資産の部	1,432	負債の部	543
公共資産	1,378	固定負債	489
投資等	22	流動負債	54
流動資産	32	純資産の部	889
資産合計	1,432	負債・純資産合計	1,432

※平成21年3月31日現在住民基本台帳人口 43,156人

5 分析

○社会資本等形成の世代間負担比率（将来世代負担比率）

社会資本等について将来の償還等が必要な負債による形成割合（公共資産等形成充当負債の割合）をみることにより、社会資本等形成に係る将来世代の負担の比重を把握することができます。

社会資本等形成の世代間負担比率は以下の式で計算します。

$$= (\text{地方債残高} + \text{未払金}) / (\text{公共資産} + \text{投資等})$$

※地方債残高：地方債：「地方債」＋「翌年度償還予定地方債」（ただし、普通建設事業費、投資及び出資金、貸付金、積立金、基金に対する繰出金のいずれの財源にもならないものは除く）

寒河江市の社会資本等形成の世代間負担比率（平成20年度末）・・・25.2%